

平成 28 年度実績概要

1 平成 28 年度の実績概要

平成 28 年度は、全国的にも 2020 年東京オリンピック・パラリンピックに向けて増加を続ける外国人観光客（平成 26 年：1,341 万人、平成 27 年：1,973 万人、平成 28 年：2,403 万人（日本政府観光局（JNTO）発表）への対応、つまりインバウンド対応への気運が高まりを見せた年度となりました。そして、外国人観光客はこれからも増加が見込まれており、平成 28 年 3 月 30 日に観光庁が『観光先進国』への新たな国づくりに向けて策定した「明日の日本を支える観光ビジョン」の中では、2020 年の訪日外国人旅行者数の目標値として 4,000 万人が設定されていることから、現在の日本はまさにインバウンド対応という新たな観光課題に直面しているといえます。これは鎌倉市においても例外ではなく、鎌倉市の観光を取り巻く環境は依然として大きな変動期の只中にある状況です。

一方で、これら外国人観光客を含む多くの観光客を受け入れることによって、観光ごみや交通渋滞、観光マナーの低下による諸問題など、観光客の行動が市民生活に与える負の影響は依然として生じており、それらの問題を解消するとともに、観光振興によって受ける利益や恩恵といったプラスの側面について市民の理解を促進することで、観光都市鎌倉に市民が誇りや郷土愛を感じられるようにしていくことは、これからも継続した取組みが求められる、鎌倉市の観光施策における大きな課題となっています。

このような環境の変化と継続した課題を抱えた中、鎌倉市では平成 28 年 3 月に「第 3 期鎌倉市観光基本計画」を策定し、平成 28 年度は、本計画の基本理念「鎌倉の持つ様々な魅力や価値が世界に誇る貴重な財産であることを認識し、観光に携わるあらゆる主体が連携・協力して、誰もが「住んでよかった、訪れてよかった」と思える成熟した観光都市を目指します。」に基づく観光施策のスタート年となりました。本計画では、上記基本理念の実現のために次の 4 つの目標を掲げており、平成 28 年度はその実現のために次のとおり取り組みました。

目標Ⅰ「歴史、文化、自然、景観といった様々な遺産を保存・継承しつつ、知られざる鎌倉の魅力や価値を掘り起し、新たな観光資源として発展・向上させます。」

目標Ⅱ「成熟した観光都市としての鎌倉に市民が誇りや郷土愛を感じつつ、安心して穏やかに暮らせるまちをつくります。」

目標Ⅲ「誰もが安全で快適につつがなく鎌倉で学び楽しめるように、観光客を受け入れます。」

目標Ⅳ「観光の振興を地域の活性化につなげます。」

鎌倉の持つ様々な魅力や価値が世界に誇る貴重な財産であることを認識し、観光に携わるあらゆる主体が連携・協力して、誰もが「住んでよかった、訪れてよかった」と思える成熟した観光都市を目指します。

目標Ⅰ「歴史、文化、自然、景観といった様々な遺産を保存・継承しつつ、知られざる鎌倉の魅力や価値を掘り起し、新たな観光資源として発展・向上させます。」

目標Ⅰに係る事業としては、海水浴場やハイキングコースといった、鎌倉の持つ自然を活用した観光資源について引き続き運営や維持管理を行う一方、鎌倉まつりや鎌倉花火大会、鎌倉薪能などの伝統的な催事、神事を実施運営する鎌倉市観光協会への補助金を支出するなど、今まで鎌倉が培ってきた遺産の保存・継承に取り組みました。

また、日中に集中している観光客を夜間に分散化すること及び観光客の市内回遊や滞在時間の延長を促し、観光客による市内消費の誘引による地域経済の活性化を図るために実施した「光の波プロジェクト (NIGHT WAVE)」で、既存の観光資源である海浜の新たな魅力を演出し、また、クラウドファンディング^{*1}の仕組みを活用して設置した、比較的観光客に知られていない鎌倉の逸話を紹介する「往事案内板」では、幕末・維新期に鎌倉で起きた事件や当時の人物にゆかりの深い社寺等の逸話を紹介し、新たな鎌倉の観光資源としての活用を図りました。



小動神社往事案内板



光の波プロジェクト -NIGHT WAVE-

^{*1} 群集 (crowd) と資金調達 (funding) を組み合わせた造語であり、ある目的、志などのために不特定多数の人から資金を集める行為又はそのためのネットサービスのことをいう。

目標Ⅱ「成熟した観光都市としての鎌倉に市民が誇りや郷土愛を感じつつ、安心して穏やかに暮らせるまちをつくります。」

目標Ⅱに係る事業としては、観光客の増加とともに、そのモラルやマナーの低下が市民生活に大きな影響を与えることとなってきたため、ホームページや広報物などでの観光マナーの普及・啓発を行いました。

また、増加する観光客は、市内の交通網、歩道にも大きな影響を及ぼしており、市民生活の負担となっています。この解消を図るため、目標Ⅰにも記載した往事案内板の設置位置を比較的観光客が集中していない地域となるようにし、ホームページ上で紹介している観光モデルコースについて、「混雑を避けて鎌倉を楽しみたい方へ」と題したページにて観光客が集中していないルートピックアップ紹介を行うことで、鎌倉駅周辺や長谷地域など特定の地域に集中している観光客の分散化を図りました。

さらに、前述のモデルコースについて、紹介ページをより見やすくリニューアルし、また、市民協働事業としてNPO団体とともに作成したマップでは、長谷・由比ガ浜地域にスポットを当て、鎌倉駅西口から観光メインスポットの一つである長谷寺、高德院大仏への比較的混雑を避けられる歩くルートを紹介するなど、「歩く観光」の推進を行いました。



かまくら四季のみどころ マナー啓発記事



市民協働事業 ぶらり鎌倉マップ

目標Ⅲ「誰もが安全で快適につつがなく鎌倉で学び楽しめるように、観光客を受け入れます。」

目標Ⅲに係る事業としては、前述の長谷・由比ガ浜地域にスポットを当てたマップの作成事業のほか、増える外国人観光客への対応に係る市内店舗の負担を軽減する多言語メニュー作成補助のための Web サイト立ち上げ及び運営事業を NPO 団体との協働事業で行い、外国人観光客に対するボランティアガイドを行っている組織、鎌倉ウエルカムガイド (KWGA) を持つ鎌倉市観光協会に対し負担金を支出することでこれを支援するなど、鎌倉の観光の担い手の下支えを行いました。

また、誰もが快適に過ごせる受入環境の整備を行うため、平成 28 年 10 月 1 日に実施した鎌倉市観光総合案内所の機能拡充及び移設に伴い、外貨両替機の設置に係る関連業者への依頼や、前述の外国人観光客向け多言語メニュー作成補助を行う Web サイトの立ち上げを行うなど、外国人観光客が円滑に鎌倉での観光を楽しめる受入環境の整備に取り組みました。

さらに、高齢者や障害のある方、妊婦、小さなお子様連れの方でも安全で快適に観光できるように、バリアフリーやユニバーサルデザインに配慮した鶴岡八幡宮裏公衆トイレ及び妙本寺公衆トイレの改修・改築に着手しました。また、市内の公衆トイレ不足、老朽化を重く見た民間事業者が、公衆トイレとしての供用を視野に設置した、最新鋭の設備を備える有料トイレの周知について各媒体で行いました。



多言語おもてなし支援サイト フード鎌倉



市内初の民間有料トイレ、
M's ARK KAMAKURA 2F トイレ

目標Ⅳ「観光の振興を地域の活性化につなげます。」

目標Ⅳに係る事業としては、市民協働事業として NPO 団体とともに作成したマップなどで「歩く観光」の推進を行うことにより、観光客がじっくりと時間をかけ、観光施設の周辺部までを回遊することによって、徒歩以外の移動手段では通り過ぎてしまうような店舗に気付き、観光消費や担い手との交流機会の創出につながるようにし、市民協働事業をともに行った団体や、外国人への観光ガイドをボランティアで行う団体などの活動を支援するなど、観光の振興を地域の活性化につなげるための事業に取り組みました。